



第121回 イギリスの自由主義改革

1 イギリスの自由貿易体制

・「世界の工場」と呼ばれたイギリスでは、ナポレオン戦争後に不況が続いていた。
 →産業資本家は、古典派経済学のアダム＝スミスやリカードの主張により、国家の管理を排除する（ ）を要求した。
 →そのため19世紀のイギリスでは、様々な自由主義的改革が行われた。

・当時イギリスでは、国内の農業を守るため（ ）を制定して、外国から安い穀物が入るのを防いでいた。
 →産業資本家は、労働者の賃金を抑えるため穀物法に反対していた。
 →（ ）と（ ）により、1839年に（ ）
 がマンチェスターで結成された。
 →1846年に穀物法が廃止され、1849年には（ ）された。



アダム＝スミス

重農主義の影響を受けて、市場原理にまかせれば「見えざる手」により自動的に調整されると説いた。その理論はリカードに受け継がれ、経済学の基礎となった。107回を復習。



コブデン

マンチェスター出身。自由貿易を促進した政治家。貿易を平和に行うことを目的としたため、対外戦争には反対であった。

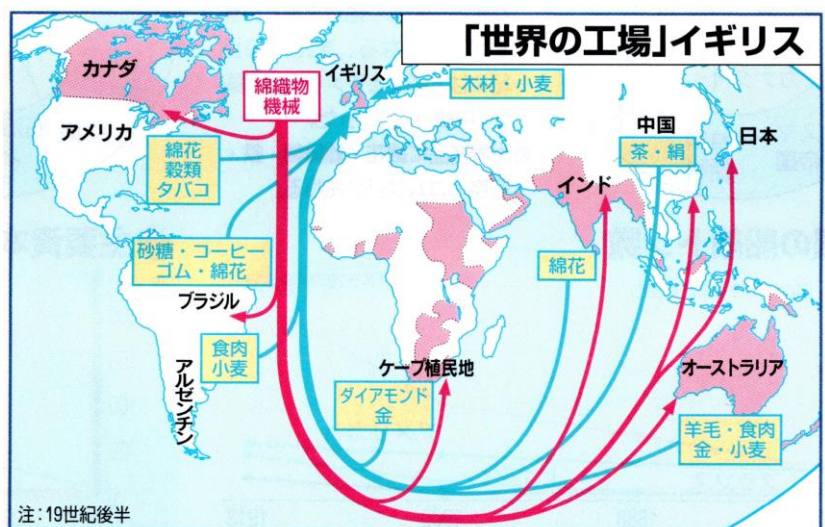
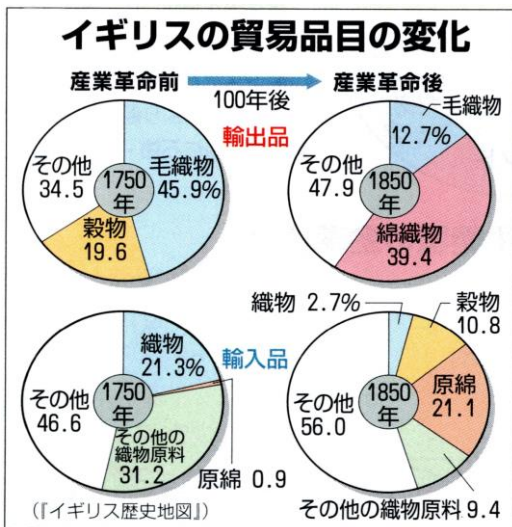


ウィルバーフォースと映画『アメイジング＝グレイス』

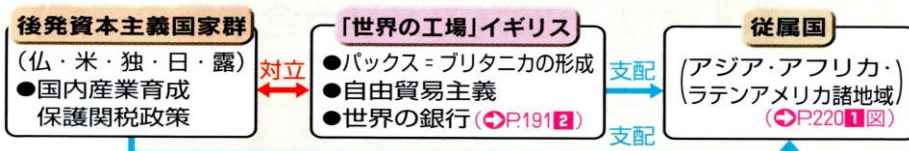


イギリスの若き政治家ウィルバーフォースは、奴隷貿易や奴隷制の廃止に生涯を捧げた人物である。彼を主人公にした映画も、2011年に日本で公開された。

・1813年、（ ）された。
 →1833年、（ ）された（1834年実施）。
 ・1807年、カリブ海における植民地の砂糖プランテーション経営者を抑えることや、人権思想の進展を背景にして、（ ）が決まった。
 →1833年には、ついに（ ）が実現した。



「世界の工場」イギリスと世界経済(19世紀中頃)



2 イギリスの選挙法改正

- 産業革命以後、都市における人口増加など激しい人口の変化があったにもかかわらず、選挙制度は古いままであった。
→有権者が極端に少ない（ ）の存在や、選挙権を持つ人が金持ちに限られるなどの問題があった。

- 1832年、ホイッグ党内閣のグレイ首相は、（ ）を行い腐敗選挙区の解消をはかるとともに、資本家など中流市民へ参政権を与えた。
→しかしここで選挙権を与えられなかった労働者は、（ ）をかかげ普通選挙などを要求した。

※この運動を（ ）という。



グレイ首相

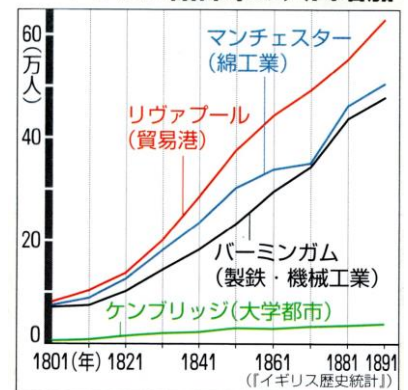
フランスの七月革命の影響を受けて成立した、自由主義的なホイッグ党内閣であった。紅茶好きで知られる伯爵。



チャーティスト運動のデモ行進

「人民憲章 (people's Charter)」では、男性普通選挙や議会の財産資格撤廃などが要求され、1848年には最高潮となったが、1850年代には終息した。

イギリス諸都市の人口増加



3 アイルランド問題

- 1801年にイギリスは、征服していた（ ）を正式に併合した。
→グレートブリテンおよびアイルランド連合王国が成立した。
- この時代、アイルランドに多いカトリック教徒は様々な差別を受けていた。

- アイルランド人は、（ ）を中心に運動を行った。
→1828年、まず（ ）され、カトリック以外の非国教徒が公職につけるようになった。
→1829年、さらに（ ）が成立し、カトリックも公職につけるようになった。
- 1845年から46年にかけて、アイルランドでは（ ）が起きた。
→多くのアイルランド人が移民としてイングランドや（ ）に移住した。

- 1848年、青年アイルランド党がテロ活動をおこした。
- 1858年には秘密結社のフィニアンが結成された。
→イギリス支配に対する暴力的な抵抗が続いていった。



オコンネル

アイルランドでは偉大なる解放者として知られる。合法的な方法で、アイルランド人の権利を拡大しようとした。現在も英雄である。



飢饉に苦しむアイルランドの家族

アイルランドの人口は、餓死と移住により、半減した。土地はやせており、イギリス人からの搾取にも苦しんだ。

